

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100418		
法人名	株式会社 あしのメディカル		
事業所名	グループホーム和喜あいあい(ユニットA)		
所在地	釧路市星が浦大通3丁目9番29号		
自己評価作成日	平成30年12月30日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100418-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成31年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの思いを大切にしています。ご本人の希望を御家族と協力し出来る限り叶えられる様、支援しています。訪問看護ステーション、協力医療機関が隣にある為、体調がご心配な時にも直ぐに相談できます。

平屋建ての為、気軽に外出できる利点があり、温かい季節は外で過ごす時間を沢山持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は木造平屋建ての2ユニットで、玄関を挟み左右にユニットが分かれており、共用空間は広く明るく、利用者は居室に籠ることがなくそれぞれの居場所でゆったりと過ごしている。また、同じ敷地内に協力医療機関・訪問介護ステーション・ヘルパーステーション・老健施設・グループホーム・保育園などがあり、保育園児は毎朝事業所の前を歩いて通うため利用者といっさつを交わしている。管理者と職員はコミュニケーションもよく会議での意見や提言・相談しやすい環境にあり、管理者は職員の話をよく聞き、運営に反映させている。利用者は明るく、事業所の名前の「和やかに喜び」を感じられるよう日々過ごせるように支援を行なっている。利用者が入所前から飼っていたペットと一緒にホームで生活が出来、家庭的な雰囲気の中で安心と尊厳のある其々の生活を支援している。利用者や職員はコンビニなどで買い物をしたり、町内会の盆踊り、清掃活動、資源回収などの行事に参加して地域との交流、地域貢献に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに生活を支援している。理念は事務所に掲示いつでも確認出来る様になっている。	管理者と職員が話し合い独自の事業所理念を作り上げた。事務所に掲示し確認を行いながら理念を職員で共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し地域行事(盆踊り、町内清掃、新年会、敬老会、資源回収など)には職員、利用者と共に毎回参加させて頂き交流を深めている。	町内会に加入し、地域行事(盆踊り・町内清掃・新年会・敬老会・資源回収等)には利用者や職員が参加し交流している。近所の大型スーパー職員と馴染みになり挨拶を交わし交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事に参加し認知症の方への理解を持って頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ず開催しており、そこでさまざまなアドバイスを頂きサービスの質の向上に努めている。	2カ月に1回定期的と同じ敷地内にある系列のグループホームと合同で開催している。地域包括支援センター職員、町内会会長等が参加して、活動報告や行事報告、近況報告等を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃とは言えないが必要時には相談に乗って頂き対応して頂いている。	管理者や担当職員が随時相談に行き、情報交換して意見や助言を得ている。また、「生活保護受給者に関わること」や「成年後見人に関わる事項」についても特に意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け自分たちの支援が拘束に当たらないか日々検討している。また定期的に勉強会も行い身体拘束についての理解を深めている。	身体拘束廃止委員会を通じて研修し、会議等で全職員が理解して、拘束をしないで利用者の安全に配慮するケアの提供に努めている。帰宅願望の利用者が複数いるので、普段から見守りを行っているが、外出した場合は一緒に一周りしても戻ってくる。万一徘徊が発生したときはマニュアルに従って初期対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し各職員の理解を深めている。また日々の業務の中でも職員間で対応について話し合い検討する事を大切にしている。			

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、計画作成者については概ね理解を持っているが介護職員全てがと言うと課題が残る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず見学を行ってもらいグループホームについての理解を深めて頂き、御家族の不安などを解消できる様に務めている。また契約時にも十分な納得が出来る様、お伝えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に御家族とのコミュニケーションを大切にしている為、面会時にご意見、ご要望を聴かせて頂いている。	毎月の通信を家族へ送付し、意見や要望、アンケートの回答を受けて運営に反映させている。また、日頃より家族の来訪時や電話で意見や要望を聞くようにしており、情報は職員で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、ミーティング、連絡ノートなどを活用し意見の出やすい環境、意見を反映させられる体制を整えている。	日々の勤務時や会議の場などで管理者と職員間のコミュニケーションも良く、管理者は、職員の意見・要望等を聞いて検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と適切なコミュニケーションとチームワークを図るため、随時相談に乗ってくれ必要であれば面談も行い環境整備に努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修など様々な機会を提供してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療法人、社会福祉法人などとの交流の機会を作ってくれ互いに情報交換できる場を設けて頂いている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ずご家族及びご本人と面談を行い御本人、御家族の不安、要望に対応出来るよう努めている。また利用前は必ず見学とホームの特徴を説明させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談を受けた時から入居に至るまで、入居以降も出来るだけ御家族の不安を解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を見極め今必要と思われるサービスを提供している。また他のサービスも含め相談に乗る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で職員が利用者と喜怒哀楽を共有しお互いに学んだり支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している通信にて個人の状況をお伝えしている。また面会時や電話などでも情報を共有できるように努め御家族の思いを大切にさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り関係性が途切れない様に支援はしているが、難しい面も感じる。	散歩時や近くのスーパーでの買い物で、知人等から挨拶を受ける等、馴染みの関係になるよう支援し、隣接する施設と合同のイベントを通じて馴染みな関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し自然な関係が出来る様、見守りつつ利用者同士が互いに協力し支え合える関係作りを支援している。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他グループホームに移住された方もいるが御家族と共に遊びに来てくれる事も有、その中で相談などを受けさせて頂いた経緯がある。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを汲み取り実現できる様に努めている。困難な場合も御家族と相談し出来る限り本人の意に沿う様、対応させて頂いている。	日常生活の何気ない会話やつぶやきなどから思いや意向の把握に努め、情報を職員全員で共有している。困難な場合は家族と相談しながら把握するよう努めている。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを使い情報収集に努めている。ご本人、御家族様からの情報は入居前、入居後も常に把握し日々の支援に行かせるように努めている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録には食事、排泄、水分量、生活の様子を記録し一人ひとりの状態把握に努め、それが介護計画に活かせる様に努めている。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子からの気付きを職員間で常時共有、検討し介護計画に活かせる様に努めている。また御家族には必ず内容を報告し御家族の意見も頂いた上、作成している。	利用者・家族から生活に対する意向を聞き、3ヶ月毎に職員と介護計画作成担当で話し合い、介護計画を作成して家族に説明し同意を得ている。体調に変化があれば、状況に合わせて医師の指導を受け家族の意向を下に、現状に即した介護計画を作成している。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、職員情報交換ノート、支援経過記録を記入しておりいつでも情報交換が出来、それを介護計画に活かせる様に努めている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービス提供が出来る様に努めている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日買い物に行く商店には利用者も顔馴染みとなり挨拶などの交流が持っている。また町内清掃などの行事にも積極的に参加させて頂いている為、理想に少しずつ近づいていると感じられる。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は有るが、御利用前からのかかりつけ医を大切にしている。	利用者と家族が希望するかかりつけ医受診の継続を支援している。基本的には家族同行の通院を行っているが、家族の都合により職員が同行する場合もある。訪問看護師が週1回来訪して利用者の健康管理を支援している。				

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪看で心配事の相談など行っているが、状況に応じいつでも相談、対応してくれる体制が整っており安心できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院相談室との連携は常に行い御家族も安心して頂ける様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から重度化、終末期に関しての方針は説明させて頂いている。協力医療機関、訪看ができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期のケアについて、利用者と家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、医師に相談助言を求めながら、今後の予測と方針について段階毎に家族等に看取り等の意思確認を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てとは言え難く課題として行く。定期的な勉強会を行い実践力を身に付けて行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームで行う避難訓練の他、地区合同避難訓練(地震、津波想定)も行っており、また避難場所として設定している協力医療機関も直ぐ隣に有る為、体勢はしっかり出来て来ていると思われる。	年2回避難訓練を消防署の立会いで家族や町内会住民の参加協力を得て行うほか、敷地内には総合病院や介護施設があり合同で行うなど災害時の協力体制はできている。	敷地内の施設との合同訓練では協力体制ができてはいるが、日頃からの避難体制づくりと災害発生に備えた「災害対応の順序(手順)」を定めたマニュアルの見直しを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ、対応には常に気を配っているがホームで過ごした時間の中での職員との関係性が有り、教科書通りの対応とは言えないが利用者の皆様には常に笑顔が有る生活が見られる。	日頃から研修会や勉強会で接遇向上に努めている。利用者は人生の先輩として敬意を払い、一人ひとりの気持ちを大切に尊重や誇りを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて解り易い声掛けや選択肢が持てる言葉かけを行い自己決定を大切にさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは有るものの、その日その時の利用者のペースを大切にさせて頂き出来る限り希望に添える様、対応させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む様に支援している。また御家族様の協力も有り、季節に応じた服装、おしゃれの支援をさせて頂いている。		

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、後片付けと一人一人の状態に合わせ役割を作り、出来る限り職員と一緒に出来る様、支援している。また買い物も必ず利用者と共に買い物を選び、好みに合わせられる様、努力している。	利用者の好みを把握して、一緒に買い物に出かけて食材選びをしたり、利用者の能力に応じて準備から下膳迄職員と一緒に食事を楽しんでいる。駐車場で焼肉を楽しんだり、行事食や外食を提供する支援を行っている。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量、食事形態など個別の状態に合わせて支援している。不足していると感じる方には補助食、好物などバラエティーに富んだ対応を心掛けている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩は必ず実施している、習慣化されていない利用者にも出来る限り清潔が保てるように支援している。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを周知する事、表情、仕草などから察知する事を心掛けている。オムツ使用者は不在。	排泄チェック表から個々の排泄パターンや声掛けのタイミングなどを把握し、トイレ誘導し、自立排泄できるよう支援している。利用者の体調等によってリハビリパンツやパット等、状態に合わせて排泄用品で対応している。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、食事などでの便秘予防は行っているが、適量の下剤も主治医と相談し使用する方もいる。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日などは取り決めておらず、一人一人の希望、タイミング、気分転換として支援している。	週2回を基本に入浴支援をおこなっているが、希望によっては毎日入浴が出来るようになっていく。入浴を拒む利用者には、様々な工夫をして入浴できるよう努めている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせてフロア、居室で休んで頂ける様に支援している。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から貰う薬の内容、写真は常に個人ファイルに綴り各職員が内容を理解出来る様になっている。また薬の変更などが生じた場合は必ず情報共有する事としている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが求める楽しみ毎、暮らしの支援に力を入れている。毎日の買い物やお話、家事仕事と選択肢も多めに作っていると感じる。					

グループホーム和喜あいあい(ユニットA)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材買い物は毎日利用者と行く事を約束とし常に外出の機会は作っている。定期的にドライブや遠足行事なども設けている。	利用者と共に買い物に行ったり、日常の散歩に行ったりしている。敬老会や紅葉見学・町内会のお祭りや母体法人施設の歌謡ショーの見学など外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の了承が得られた方は自己管理する場合も有る。難しい方などはホーム管理とさせて頂くが、いつでも希望に応じ使用できる体制となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望が有れば、いつでも対応させて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節ごとの飾りつけを工夫させて頂いている。夜間などは照明、音にも配慮している。	平屋の建物に2ユニットあるが、全体にゆとりある造りになっている。調理室から居間・居室・廊下が一望でき利用者動向が観察できることから安全性に優れている。広々とした居間では利用者が思い思いに寛ぎながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を工夫する、食卓の配置も同様に工夫する事で思い思いに過ごせる空間が作れていると思われる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前には御家族、本人に使い慣れた物とお話させて頂いている。難しい場合も有るが本人が居心地良く過ごせる様、努めている。	馴染みのタンスやイス、仏壇、日用品を持ち込み、家族の写真を飾って、その人らしく居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に出来る事、解る事を追求し環境を作っている。		